



# 校報 西栗栖

令和5年度 1月 9日号

学校ホームページ URL  
<http://nishikurususyo.tatsuno.ed.jp/>

あけましておめでとうございます

昨年の1年を表す漢字は「税」でした。私個人としては、「命」ということを2学期の終業式に話しました。子どもたちには、「今」を大切に、家族のつながりを大事にしてほしいと願っています。そして、自分にかかわってくださる多くの方への「感謝」の気持ちをいつも忘れずに過ごしてほしいものです。

## たつのワーカーズ職業体験（12/14）5年



「知らなければ、決められない」ワーカーズ代表の方があいさつで、言われた言葉が印象的でした。10の職業から、西栗栖の子たちは、自動車整備、設計、保育士、洋菓子づくりを選んで体験しました。夢を求める一つの経験になるといいですね。

## 救急救命講座（12/19）6年



守ることができる命があれば、6年生でもできることを……。消防署からご来校いただき、救命方法を学びました。胸骨圧迫、気道確保の方法を教えていただき、全員が人形を使って実技訓練をしました。実際に使うことがあっては大変ですが、「助けを呼ぶ」など、できることが一つでも心に残るとよいですね。

## 人権まなびい 「自分で決める」

障がい者は「困っている人」「誰かが助けてあげないといけない人」と思われやすく、「自分で決める力」があるのに無視されてしまうことがよくあります。

たとえば視覚障がい者や車椅子にのった人が、介助者といっしょに買い物に行ったとき、店員が「どれになさいますか」と介助者にだけ聞く、といった場合です。ここでは本人の人格が無視され、本人こそ「決める人」であることが忘れられています。

知的障がいがある人の場合は、どうでしょう。「どうせ何もわからないから」と言って、周囲の人が勝手に決めてしまうことが多くないでしょうか。適切な選択肢を示して尋ねたり、わかりやすく伝えたりすることで、ある程度、本人の意向をくむことができる場合も多いはずですが、そうした努力が十分なされていないことはないでしょうか。

障がい者に限らず、社会（あるいは家庭）のなかで弱い立場にいる人ほど、意志や気持ちを軽視されたり、「自分で決めること」を奪われやすかったりします。子どもに対する親、妻に対する夫、体の弱った高齢者に対する家族などは、無意識のうちに強い立場にたつて、相手が「決める力」があること、それを尊重することを忘れてしまいがちになってはいないでしょうか。

## 【1月の主な行事予定】

- 9火 始業式
  - 10水 給食開始 学級費振替日
  - 11木 わくわくお話宅急便
  - 12金 移動図書館
  - 16火 委員会活動
  - 17水 避難訓練
  - 23火 新1年生入学説明会
  - 30火 クラブ活動
- ※ 毎週木曜日は教職員定時出勤日です

西栗栖地区のみなさま、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。